

貧困緩和と ソーシャルワーカーの 役割に関する国際的方針草案

IFSW より次の文書が届きました。ご存知のとおり、IFSW は、人権擁護のために積極的な活動を展開してまいりました。ほかにもジェノサイドや国外不妊治療に関するものについても取り組んでいます。今回ソーシャルワークの基本的課題である貧困に関する方針をここで紹介します。

岩崎浩三 星野晴彦 訳

加盟団体各位

添付いたしました「貧困緩和とソーシャルワーカーの役割」に関する国際ソーシャルワーカー連盟方針草案文書をご覧ください。覚えておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、2006年のミュンヘン総会で草案のたたき台が議論され、その際さらに検討を加え、今年の八月のブラジル・バイア州での総会で文書を示すことを決定しました。

添付した文書はこの努力の成果であり、アフリカ地区ブロック代表チャールズ・ムブグア Charles Mbugua の下で調整がなされてきました。これはまだ初期草案であり、まだ検討を要します。特に我々は現在お示したものよりも短くしたいと考えています。しかし、我々は皆様にこの文書についてご検討いただき、最終草案の方針文書を練り上げていく作業に有効となるコメントを我々に送って頂きたいと考えます。皆様から頂戴したコメントに基づいて必要な作業をするために、2008年5月11日までにコメントを頂きたいと思います。

ベルン 2008年4月11日

敬具

トム・ヨハネセン 事務局長

国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW)

Postfach 6875 Schwarztorstrasse 22

CH-3001 Berne SWITZERLAND

Tel (41) 31 382 6015 Fax (41) 31 382 1125

E-mail: global@ifsw.org

Web: <http://www.ifsw.org>

DRAFT
INTERNATIONAL POLICY ON
POVERTY ALLEVIATION AND THE ROLE FOR SOCIAL WORKERS
貧困緩和とソーシャルワーカーの役割に関する国際的方針草案

序文

ソーシャルワークはこれまで、何らかの理由で不利益をこうむって、相対的若しくは絶対的貧困生活にあると示された、個人とコミュニティのホリスティックな問題に取り組んできた。貧困は人間性を奪うものであり、FSWは貧困緩和の課題に尽力してきた。2006年ミュンヘンでは貧困緩和の方針文書を作成する、検討委員会が結成された。

背景

コペンハーゲン宣言では、絶対的貧困とは「食べ物・安全な飲料水・衛生設備・健康・住居・教育・情報を含む、基本的な人間のニーズを剥奪する状況」として、世界銀行は「著しい貧困」を一日1ドル以下で生活している人々、「貧困」を一日2ドル以下、と定義している。その基準では2001年、世界の人口の21%が「著しい貧困」となり、世界人口の半分以上が「貧困」となる。ⁱ

貧困には三つの段階が設定されてきた。「著しい貧困」「中程度の貧困」「比較的貧困」である。「著しい貧困」は家族が生存のための基本的ニーズを満たしていないときに生じる。彼らは頻繁に空腹であろうし、安全な飲料水が足りないかもしれない。そして子供たちに教育を受けさせる余裕も無いであろうし、雨露をしのぐ場所にこと欠き、不適切な衣類をまとっているだろう。災害の被害を受けやすく、彼らは生活の危機に常にさらされ、荒廃した家に住み、病気も発生しやすい。そして暴力・麻薬の売人・腐敗した役人・組織犯罪に無防備である。彼らには資源も乏しく、そのために政治的な力にも乏しい。この貧困のレベルは、途上国に発生しやすい。中程度の貧困は家族が基本的ニーズを満たしているのみという状態で生じるが、比較的貧困は先進国で家計が国民所得の一定額を下回る状況をいう。ⁱⁱ

貧しくない人々が貧しい人々のいる世界で、単なる観光客になる傾向は国際的な開発の主要な問題の1つである。世界の有産階級と財産のない人の差が単に相対的な富と貧困の問題ではなく

なり、生死の問題になる時、飢饉や他の災害時に最も顕著な状態となる。¹⁶ 私たちが支援スタッ

フ、ジャーナリスト、聖職者であっても、これらの場所に遠征して、見て、匂いをかいで、触れて、インタビューして、ことによると瀕死の者に食料を供給し、その後、私たち自身の居心地の良い家とホテルへの戻ることができることは、現代の最も奇妙なパラドックスの中にきちんと位置づけなければならない;

貧困は過去の世紀からずっと、ソーシャルワークの開発の中心的概念であった。経済的剥奪の形態として、それ自体重要である。専門家が日々取り組まなければならない全範囲の問題の基本的な原因と捉えられている。健康不良、家族のストレスと断絶、弱まったコミュニティー構造、および政治上のそして社会的な無関心である。ガバナンスを改善することは貧困者に直接、間接的に資することができる。そしてこれを確実にする鍵は、貧困の緩和が公的責任であり、貧困が社会全体のための潜在的可能性がある人的資本を本質的に実現しないものであると認めることにある。

貧困と傷つきやすい人々

貧困の様相は、多数の社会集団を反映する：子供；若者；女性；高齢者；身体障害者；避難民；移住者；移民；ホームレス；原住民；都市の居住者と田舎の居住者；天災のリスクにある者と人的戦争；そして、世界的流行病の犠牲者。貧困は破壊的で悲惨な規模で、これらのグループに広まる。貧困は、戦争、闘争、強制的移転、天災、生態系の退化、および高い人口増加率に密接に関連している。^{iv}

子供はとりわけ剥奪により、飢餓と栄養不良の被害を受ける。学齢前の児童の死亡の半数が栄養不良と伝染病の交差に起因している。最も裕福な国でさえ、4000万から5000万人の子供が相対的貧困の状況で成長している。^v イギリスでは、例えば現在5人の子供の1人が州の手当てに依存する家庭で生活している。おそらく、そのような子供は手当てに依存する大人達になりやすくなる。

女性は、貧困に苦しんでいる人々の多数を占める。一人親とシングルマザーの貧困率は驚くべき高さで維持されている。彼らは教育機会が乏しくなっているが、母としての責任を持ち、強制労働、違法売買、および他の形態の暴力の対象となる。

高齢者は世界の人口の最速増加している部分を占める。グループは2050年までに6億から20億まで4倍になる。^v 高齢者は就業機会の不足により貧困に陥りやすい。多くの社会で彼らの安全と生存のための調整をしていない。

教育的、職業的の機会から排除された貧困者の中に、障害者が含まれており、そして結果的に彼らの生活は貧困と認識される。ある状況で、彼らは社会から完全に引き離され、施設で、辺境的な状況で、虐待された生活を強いられている。

難民、移住者、移民、ホームレス、および少数民族は、主要な社会の機会から同様に排除された経験を持つグループであり、その結果、貧困とそれに付随する侮辱に苦しめられる。

先住民族は、特に貧困の危険があり、しばしば住んでいる国の中で国籍も無く、投票権も無い。大きい都市部でほとんど見られないが、若しくは遠く離れた地に隔離されている。先住民は発展途上国の著しい貧困が先進国の相対的貧困の原因となる高い失業率に彼らは苦しむ。

都市と田舎の居住者は形が異なるが、貧困につながる同様の抑圧的な力をかけられる。都市の住民は、競争できる技能を持たないためであり、田舎の人々は利用可能な仕事の不足からである。都市と田舎の活動が実際に交差すること(都市周辺のインタフェースとして概念化されている)に関心はほとんど向けられてこなかった。このインタフェースは厳密に都市の周辺のゾーンか物理的な領域ではないが、これらの用語により概ねそのように解釈される。これは都市主導の経済的・社会的変化

で最も緊迫している所、都市の中心と周囲の農村地域の両方からの移住者が住み着く所、そして、天然資源の競争的需要で強い圧力がかかっている所、である。その結果、人々は必ずしも彼らの家を残さず、田舎から都市経済に移動することになる。

通常、天災に最も影響を受けやすい地域に住んでいる人々は貧しい。そして、生存者として、彼らはリソースへのアクセスなしでとり残される。一般に、武力紛争で生き残った貧困者は移転させられる。武力紛争が国の中で増加しており、ほとんどの犠牲者が、民間人、貧乏人であり、その結果、さらに貧しくなる。

貧困は HIV-エイズや SARS などの世界的流行病に関連している。流行病は貧困に影響する。そして、貧困状態にある者は、病気の影響をより受けやすい。貧困と世界的流行病は互いに絡み合っており、きわめて悲惨な結果に至る。

貧困の結果

貧困の結果は、多面的でしばしば自己維持的である。貧困に関連している社会的な「状態」がある。貧困状態にある人々は、健康管理サービスを減少させた；教育を受ける機会の減少、限られた就業機会；彼らは、都市のスラムコミュニティか、交通機関が無いか制限されているような農村地域に住んでいるかもしれない。彼らは警察の保護、安全、社会的保護、適正手続き；そして、政治上の、そして、社会的な参加がしばしば否定されている。投票権も無く、排除され、差別されることで、孤立と不満に至りやすくなる。貧困のこのような側面(重大で権利を弱らせるような)は、家族、共同体、および社会のつながりを脅かす。そのような性格が自己維持的であるので、貧困の軽減を目的とした努力が同時になされない限り、貧困の根絶は不可能となる。

貧困緩和へのアプローチ

貧困は、家計が需要を満たすため物質資源に極めて乏しい状態であることを意味する。しかし、貧困を減少させるための多くの戦略は、直接的な物理的支援の提供のみではなく、むしろ状況の基本的な原因に取り組むことを目的としている。参加、自立、持続性、およびエンパワメントは、貧困対策の支援で主要な原則となる。

田舎から都市部へ移動、また逆の場合も、生活活動がしばしば変化する。多くの貧困者はこの変化と共に来る新しい機会をうまく利用することができる。しかし、女性は男性と比べて新しい機会をうまく利用することができない；しかし、例えば、貧困者を支援する介入(資本・技能・情報へのアクセスを促進する)は、彼らを援助することができる。

所得と物質的なサポート

社会保障給付金などの、ミーンズテストと普遍的所得移転プログラムには、貧困撲滅効果がある。そこでは、「移転前」の収入が貧困水準を下まわっていた家族を貧困との境界以上に押し上げる。また、税制は、貧困を減少させるのにある程度使用される。

幼い子供と初期労働年齢者が一緒にいる家族において、就労していない若しくは低賃金労働は、もっとも主要な直接的貧困の原因となる。労働供給と労働需要が両方ともに貧困撲滅戦略の対象であった。

早期介入

貧しい子供たちが、様々な不利益をこうむり、これにより成人しても貧困となる危険性があるという認識が、貧困撲滅に着目した様々な初期の介入プログラムの開発を導いた。最も知られているプログラムの中には、学校プロジェクトの起源、および補償教育プログラムがある。

コミュニティー構築のイニシアティブ

これらは一般的に、個人の近隣か、自治体の小区分に合わせる。通常、コミュニティー構築のリーダーシップは、近隣内部と外部の利害関係者とリソースとのパートナーシップから得られる。コミュニティー構築の発議は、貧しい共同体を健康的で自己充足的な家族を支援することができる機能のレベルに回復するために、変えなければならないことに関する彼らの意見を包括していなければならない。コミュニティーを基盤とした施設は、計画していることを支援し、グループ活動を促進し、変化に対処する人々の自信を向上することができる。そして地域で入手可能な情報とマイクロ経済学の機会を向上させることができる。同時に政府と NGO の人々などの外部の団体とのリンクを創造し、強化する。

貧困緩和プログラムと戦略の焦点が、次のものに設定されているかもしれない。それは、地域密着型のソーシャルサービス、国または地域で提供される福祉的供給、または能力形成と所得生成活動を統合する包括的なアプローチ、である。

人権

1995年にコペンハーゲンで行われた世界社会開発サミットの行動プログラムは、人種主義、人種差別、外国人恐怖症、および関連する不寛容の犠牲者が直面している生活状態の既存のギャップを埋める必要性を述べた。特にそれは、非識字率、普遍的な初等教育、幼児死亡率、5歳未満の子供死亡率、健康、全てのもののリプロダクトに関する健康ケア、安全な飲料水へのアクセス、および男女平等の促進に關している。

WSSDでは、加盟国は、地方公共団体、民間部門、および市民社会組織と共に本当のパートナーとして持続可能な開発に献身的に活動した。この新たなコンセンサスは、本質的に人権と持続可能な開発の関係で成長している認識である。これは、強制的な追い立てや交渉と参加に置き換えられた係争のような人権抑圧の減少に導いてきた。ラテンアメリカと例えば、カリブ海では、組織化された国土侵略と大規模追い立てが著しく減少した。¹⁸

2005年5月26日付けの文書で、国連の事務総長は人権と貧困との関係を強固にした。「以下のことを、実施の際の強く焦点付けていく必要がある。それは、今日貧困、差別、紛争、刑罰の免除、民主性の欠如、および制度上の弱点によって引き起こされている人権問題に対応するために、新しいリソースと能力を起動させること、である」と、文書では述べている。

また、国連人権委員会事務所(OHCHR)も、人権と貧困とのつながりを広報するようにますます努力してきた。人権は分割できるような分離した問題ではない。市民的、政治的、経済的、そして、社会的で文化的な権利はすべて、貧困に作用する。

市民社会の力の一部として、ソーシャルワーカーは貧困と人権不公正によって最も影響された人々に内部からアクセスする手段を持っている。

貧困とミレニアム開発目標

2000年9月に合計で、147の州と政府および189の国の代表が、歴史的な国連ミレニアム宣言(A/RES/55/2)を採択した。そのようにして、国々は遠大なビジョンに献身する世界にアクセスする。ビジョンは、持続可能な経済成長と、人権は努力の中心に設定されなければならないという理解で貧困者のニーズの焦点付けることを結びつける。2015年を超えるこれらの目標の到達は、主に自国の経済資源の動員し、それらが生産的な個人的・公共の投資につながるようにすることに深く依拠する。1980年代半ばと1990年代の半ば間に、のサハラアフリカに隣接している多くの国が、この目標を促進するために金融の自由化を実施した。¹⁹

宣言は、8つの主要な目標について詳しく説明している。それに向けて、18の数値目標と、30以上の定量化可能なインディケータが設定されている。これらの8つの目標は以下の事項を目的にしている。

著しい貧困と飢餓を根絶

世界では、5人に1人が1日1ドル未満で生活し、7人に1人が毎夜、空腹な状態で就床する。

この貧困対策目標は、2015年までに1日あたり1ドル未満を生き続ける人々の率を半分にまで減少させるよう要請している。1990年の28%から2015年の12.7%までの減少は「著しい貧困者」の数を3億6300万人減少させるであろう。

普遍的な初等教育を実現させてください。

世界中の1億400万人の子供は学校へ行っていない。彼らの両親に、学校に行かせる余裕がないためである。

世界の多くの地域で無料の公教育は存在していない。そこで、両親は地域でまかなえない報酬、本、および制服の代金を支払うことが求められる。

男女の平等と女性のエンパワメントを促進してください。

児童の死亡率を減少させてください。

5歳未満のおよそ650万人の子供が毎年、ワクチン接種や清浄水用の井戸のような安価の方法で予防することができた病気で死亡する。
母性の健康を改善してください。

HIV/エイズ、マラリア、および他の疾病と戦ってください。
330万人がHIV/エイズで既に死亡した。そして、3940万人の大人達と子供がエイズに罹患している。
1800万人の子供が、既にエイズで片方か両方の親を失い、彼らの内1200万人がアフリカに単独で残されている。
環境維持を保障してください。
グローバル・パートナーシップを発展させてください。

ミレニアム目標は、深くソーシャルワーク、特にサービスと社会正義の中核的原理に共鳴する。はじめから、私たちの職業は貧困を軽減し、そして、困難な立場に陥った家族と共同体を支援するために活動してきた。私たちは、一貫してコミュニティー機関での活動、ローカル資源開発、および危機対応を促進してきた。そして世界中でこれらの同じ技能を適用することができる。知識を持って活発な人々として、私たちは自分たちの共同体の中で、他者にこの重大でグローバルな努力に注意を喚起することができる。また適切に注目し、その成功に向けて貢献するよう、私たちの政府とその市民に促すことができる。

ソーシャルワーカーの役割

ソーシャルワーカーは歴史的に、貧民と共にまた貧民を代弁して活動する重要な専門職であった。国際ソーシャルワーク実践は、地域レベルでの貧困緩和活動に寄与することができる。注意すべき一つの役割はコミュニティー開発である。コミュニティー開発は、コミュニティー分析、社会計画、コミュニティーオーガニゼーション、およびソーシャルアクションの技術を必要とする。コミュニティー開発は、地区の居住者の経済的チャンスを生かす能力を必要とする。それは、産業の維持、地域のビジネス開発、職業訓練、および職業斡旋を通じてである。このような技術と経験を持つソーシャルワーカーは、専門家が貧しいコミュニティーの再建支援を求められるコミュニティー開発の中で、重要な機能を充満することができる。

ソーシャルワーカーの別の役割はコミュニティー実践である。貧困は個人的特徴と、コミュニティー資源と機会との複合的相互作用を含んでいる。コミュニティー実践は、個人とコミュニティーへの活動と、コミュニティーへの活動を結びつける。これらを活用する個人的な能力とともに、リソースと機会を高めることに着目する。個人が成長するにつれて、共同体も成長する。二つは互いに補強している。

社会的・経済排除と社会的な崩壊に取り組む、包括的で統合したモデルが、貧困緩和を有効にするためには必要である。

世界中のソーシャルワーカーと貧困に関する例

世界中のソーシャルワーカーは、貧困を軽減するためのプロジェクトに頻繁にかかわってきた。

合衆国では、全米ソーシャルワーカー協会(NASW)が世界中の組織と ONE キャンペーンに加わった。ONE キャンペーンは、貧困を軽減するために献身している。それは、グローバルなエイズと貧困と戦うために、すべてのアメリカ人(一人ずつ)を巻き込んでいくための活動である。基本的信念を持ち、貧困撲滅を目指した組織の多様な提携は、貧困と戦うために一体になった。ONE キャンペーンは国際的なミレニアム開発目標を達成するために献身している。米国のソーシャルワーカーの中での主要な連携と代弁の活動は、この時点でこれらの目標を達成すること支援するために行われている。米国では、75 万人のソーシャルワーカーと他のものが貧困を減少させ、究極的には根絶することを目的とした ONE キャンペーンを支援してきた。

グアテマラとカナダでは、ソーシャルワーカーが他の関連領域が支援し始める前にストリートチルドレンの基本的ニーズに取り組むことに成功してきた。

1980 年代のホームレスの問題として、4,000 の家庭が使用料未払いにより、アパートを失ったウィーンでは、2 年間でソーシャルワーカーが、追い立てを 61 パーセントから 25 パーセントまで抑えるのに成功した。また、追い立てられたテナントには社会必需部を通して公営アパートを供給するようにした。²⁰

タンザニアでは、ソーシャルワーカーが代弁と共同作業で重要な貢献をした。インドでは、ソーシャルワーカーが貧しい女性の財政的な独立を目的とした活動にかかわっている。²¹

概して事例は、貧困緩和作業が最も感情的であったことを示唆している。それは、地域密着型で、当事者中心のアプローチを用いて、特別の原則、過程、およびプログラムに関わる時である。

発足以来、IFSW は貧困に真剣に取り組んできた。IFSW の目標は人間の福祉と自己充足を促進することにあると明確に記された; 個人、グループ、国家的、そして、国際的な需要、及び希望に適するように、資源を開拓する;人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、改善する; そして、社会正義の達成に向かって取り組む。

IFSW が社会正義を推進するために使用した方法の 1 つが、方針作成であった。すべての IFSW 方針が直接か間接的に、貧困、または、貧困によって直接的に影響を受けた人びとに関係している。

倫理

IFSW と IASSW 原則声明に従えば、「倫理的な認識はソーシャルワーカーの専門職実践の基本的な部分である」。これらの倫理は、ソーシャルワーク専門職を導き、形成して、ソーシャルワーク実践のための価値に基づいた基礎を提供する。

ソーシャルワーク実践の性格; 葛藤している価値を取り扱い、社会のために難しい倫理的選択を行うこと; は倫理的ジレンマがすべてのソーシャルワーカーの実践の一部になっていることを意味する。

貧困の社会問題と、ソーシャルワーカーが貧困者の苦痛を和らげ、取り組み、支援する方法を検討する時に、ソーシャルワーカーは道しるべとして倫理原則に目を向けることができる。

ソーシャルワークの中核的倫理原則の一つは、すべての人々が敬意と尊厳を持って扱われる権利があることを要請する。そうすることにより、私たちはすべての個人の人権が擁護されるのを保証しなければならない。個々の人間には、統一体として扱われる権利がある。それは個人としてのみではなく、家族・コミュニティーそして環境にも専門職に専門職が関心を持つことを要請する。全体としての個人を支援するためにマイクロ、メゾ、およびマクロシステムを吟味しなければならない。個人が貧困で苦しんでいるとき、通常いくつかの原因となる要素がある。そして、ソーシャルワーカーはこれらのレベルのそれぞれで、貧困を軽減するように努力するべきである。

専門職としてソーシャルワーカーには、すべてのレベルで差別に挑戦することによって社会正義の原則を促進する責任がある。差別には、社会経済の状態に基づくものも含まれている。ソーシャルワーカーは、経済的不平等を助長するような社会的な状態を取り除くために、あらゆるレベルでの不当な政策と実践に挑戦しながら、共に活動しなければならない。これは、そればかりではないが、次のことを含む。リソースを最も必要な者が第一に受けるようにすることと、提供されたリソースを公正に分配することを確実にすることである。

また、ソーシャルワーカーはまた、自分の国の専門職倫理規範に目を向けることができる。それもまた、社会正義問題に根づいたものである。 様々な倫理綱領を研究により、それがきわめて類似していることが示された。(10, 11)

方針声明

IFSW は、社会的弱者を最優先させて、貧困を助長する病的状態と環境負荷を最小にする開発議を支持する。この役割では、IFSW は、貧困者の能力を増強するように提唱し続け、世論ソーシャルサービスへの公正なアクセス、環境悪化の減少と食糧生産のための天然資源の持続的利用、水と収入へのアクセス、を喚起するだろう。

IFSW は、貧困緩和の活動が、積極的な協力と思慮深く貧困者を巻き込むことなく持続可能であるはずがないと信じている。それは、土着の文化を尊敬し、土着の知識を保護して、天然資源の相互緩和と乱開発に敏感な介入・戦略・過程を通じてである。

IFSW は貧困の総合的な結果を主張する；闘争、環境悪化、世界的流行病、気候変動、および安全性のなさは、織り混ざっている。そのため、その否定的な影響は貧困緩和を公共とグローバルな責任にして、世界中のすべての社会階級を貫いている。

IFSW は、ミレニアム開発目標に賛同し、現代の技術が触媒的役割を果たしていると認める。それは、地域経済を加速して、特に貧しい国が主要な開発プライオリティを満たすのを助けてくれる；HIV/エイズの広がり食い止め、健康と教育を促進して、極端な貧困を半分にする。

貧困の基礎となる原因に取り組み、すべてのレベルの貧困の緩和に向けられた政策と他の構造的な投入を進める際に、IFSW は政府と、NGO と、国連団体と民間部門との共同作業を推奨する。

IFSW は公的な貧困政策の策定し、率先的なソーシャルアクションを強化し、貧困緩和のプログラムの実施に支持することを確言する。；このために、IFSW は、方針・議題・討論・プログラムがこれに注目している他の国際的な団体やグループと協力し続けるであろう。

IFSW は、著しい貧困と他のすべての根本的な原因を軽減するソーシャルワークの活動を開始して、支援しようとする。それは、人権に基づく実践と相容れない活動と考えを注目させることによってである。この役割では、IFSW は、同様の課題を持つ、他の国家的、地方の、そして、グローバルな組織と協力し続けるであろう。

金持ちと貧乏人との格差の増大、教育と情報の不足、および特に発展途上国における排除的政策が貧困緩和の活動への障害となることに IFSW は関心を持っている。IFSW は、社会的弱者の正統の要求を助成し、貧しい人々のそれぞれの権利の範囲で機会均等に向けて喚起する。

IFSW は、すべての人々にとって、人権が基礎的なものであることを認める。食物と避難所という基本的ニーズが完全に満たされていないのであれば、個人と集団、および政治的と市民的権利が、完全に意図された意味を持つことができない。

IFSW は貧しい人々が経済的、そして、政治上の、そして、社会的な前進を組織化して促進する権利を再確認する。それは、社会の不平等を促進する状況や政策に挑戦することによってである。

IFSW は、子供、女性、および高年層がしばしば著しい貧困の矢面に立っているが、若者が多くの発展途上国で人口の大部分を構成すると認識している。IFSW はそこでこれらのグループを優先的にした活動と意図に適した思慮深い政策を支持する。

REFERENCES

World Bank Group 2005 (<http://www.developmentgoals.com/Poverty.htm#percapita>).

Sachs, J. (2005). *The End of Poverty*. New York: The Penguin Press.

Cox, D. & Pawar, M. (2006). *International social work: Issues, strategies, and programs*. London: Sage Publications.

International Council on Social Welfare Statement to United Nations Commission for Social Development, 8 - 17 February 2006, p 12.

International Association of Gerontology, United Nations Document, E/en5/2006/NGOs

International Federation of Social Workers, (2004). *International Policy on Indigenous Peoples*.

Cox, 2006.

United Nations. (2004) *The Inequality Predicament, Report on the World Social Situation*, New York: UN Department of Economic and Social Affairs.

Cox, 2006, p 210.

Karabanow, J. (2003). Creating a culture of hope: Lessons from street children agencies in Canada and Guatemala. *International Social Work* 46(3), 369-386.

Burke, J & Ngonyani, B. (2003). A social work vision for Tanzania. *International Social Work*, 47(1), 39 - 52.

Cox, 2006, p 210.

International Federation of Social Workers, (2004). Ethics in Social Work: Statement of Principle.

Banks, S. (2001) *Ethics and Values in Social Work*. London: Macmillan Press.

Congress, E. (2006). Teaching social work values, social work ethics, and human rights. *Social Work around the World IV*, International Federation of Social Workers.

¹⁶ Graham H.(1989), *Lords of Poverty* London: Mcmillan Press P119.

¹⁷ London Business Weekly Feb, 8, 2008 P.12.

¹⁸ United Nations Centre for Human Settlement (Habitat) (2001), *State of the World Cities*.

¹⁹ World Development Report 1991 P213.

²⁰ Natural Resources System Programme Brief, March 2006

²¹ Report of the UNRISD 7 - 8 November 2000 p8.